

場所 広島県東広島市

面積 8.4ha

活動目的 生活様式の変化とともに失われつつある里山的自然を東広島キャンパスに残すとともに、学生・地域の人々が多くの動植物と身近にふれることのできる場を維持していくことを目的とする。

サイト概要 本サイトは広島大学東広島キャンパス内に位置する。キャンパス内には良好な自然環境が残り、多くの絶滅危惧種を含む希少な動植物の棲息地となっている。申請区域（8.4 ha）はぶどう池上流の山中谷川周辺の「溪流・湿地ゾーン」（2.0 ha）、ぶどう池周辺の「ぶどう池ゾーン」（3.6 ha）、ぶどう池下流の角脇川周辺の「ふれあいビオトープゾーン」（2.8 ha）の3つに区分される。溪流、湿地、水田、草地、アカマツ林、広葉樹林といった様々なハビタットが存在し、東広島植物園の職員らによる草刈等の維持管理によって里山的環境が良好に保たれている。また、学生の授業の一環や、地域の園児の自然体験の場としても利用され、教育的側面も持ち合わせている。



土地利用の 変遷

当サイトは、約250haの敷地を所有する広島大学東広島キャンパス内に位置している。中央に位置する「ぶどう池」は、かつて地域の農業用水源として利用されていた。ぶどう池を中心として周辺の樹林地を保全するとともに、馬蹄形のエリアに各種大学施設が配置され、現在に至っている。サイト区域は現在、絶滅危惧種を含む貴重な動植物の生息地となっており、ビオトープ整備や下草刈り等の手入れを行いながら自然のままの姿を残している。

サイト周辺の 環境

キャンパス東西には山林が存在し、キャンパスへと連続する自然環境が存在する。周辺は水田及び農業用ため池が数多く存在し、水生昆虫や水生植物の貴重な生息地が存在する。サイト北部は学生の居住地となっており、当サイトと人の往来も盛んである。

アピール ポイント

キャンパス敷地という特性を生かし、サイト内の自然、生物多様性を多くの人に体験してもらうことが可能であり、観察道や、ビオトープ等の整備が行われている。

職員と学生が協力した調査・保全活動が盛んであり、ニホンアカガエル、ササユリやモウセンゴケを代表とした貴重な生物の生息地を保全している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは下草刈りや耕作などの管理が行われた里山的環境が維持されており、林床の明るさが確保されたアカマツ林、手入れされた湿地（ビオトープ）といったハビタットに、様々な生物が生息している。

【主な植生】

アカマツ－アラカシ－タカノツメ群落

【確認された主な動植物など】

サイト区域およびサイトが位置する東広島キャンパスで、これまでに確認されている種は以下である。

哺乳類16種、鳥類112種、爬虫類13種、両生類10種、魚類7種、昆虫類1232種、その他動物241種、維管束植物758種

【アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*】

ふれあいビオトープ、溪流・湿地ゾーンで確認されている。

【ゲンジボタル *Luciola cruciata*】

サイト内では溪流・湿地ゾーンに多く見られ、6月中旬には学生や地域住民が観察に訪れる。

【サワガニ *Geothelphusa dehaani*】

サイト内では溪流・湿地ゾーン、ふれあいビオトープの湧水周辺で多く見られる。

【コバノミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* D.Don ex G.Don】

サイト内では全域で見られ、4月中旬には花を観察することができる。広島県のアカマツ二次林を代表する里山の植物である。



写真の説明：アカハライモリ



写真の説明：アカマツの球果

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは大学内という立地を活かし、教育的利用が盛んである。大学の授業で当サイト区域を利用した授業が開講され、環境整備や自然保全の教材として最適である。また、「溪流・湿地ゾーン」内に位置する水田は付近の園児による農作業の体験場となるほか、「ふれあいビオトープゾーン」周辺では地域住民も参加可能な観察会を定期開催しており、教育・レクリエーション効果を生み出している。

【主な植生】

アカマツ-アラカシ-タカノツメ群落

【確認された主な動植物など】

サイト区域およびサイトが位置する東広島キャンパスで、これまでに確認されている種は以下である。

哺乳類16種、鳥類112種、爬虫類13種、両生類10種、魚類7種、昆虫類1232種、その他動物241種、維管束植物758種

【アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*】

ふれあいビオトープ、溪流・湿地ゾーンで確認されている。

【ゲンジボタル *Luciola cruciata*】

サイト内では溪流・湿地ゾーンに多く見られ、6月中旬には学生や地域住民が光の観察に訪れる。

【サワガニ *Geothelphusa dehaani*】

サイト内では溪流・湿地ゾーン、ふれあいビオトープの湧水周辺で多く見られる。

【コバノミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* D.Don ex G.Don】

サイト内では全域でみられ、4月中旬には花を観察することができる。広島県のアカマツ二次林を代表する里山の植物である。



写真の説明：溪流・湿地ゾーンを舞うゲンジボタル



写真の説明：コバノミツバツツジの花

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト内は下草刈りや耕作などの管理が行われた良好な環境が維持されており、林、草地、溪流、湿地などの多様なハビタットには、様々な生物が生息している。学生らの調査によって、環境省RDB、広島県RDBに記載されている希少種が53種確認されている。

【確認された希少種】

本サイト内では、環境省RDBまたは広島県RDBに掲載された希少種として、哺乳類1種、鳥類6種、爬虫類3種、両生類4種、魚類1種、昆虫類22種、その他無脊椎動物2種、植物10種、藻類4種の計53種が確認されている。

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

サイト内の湿地およびふれあいビオトープでは草刈り等の維持管理が行われ、良好な湿地環境が維持されている。特に両生類においては重要な繁殖地となっており、ニホンアカガエルなどが毎年繁殖に利用していることが確認されている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

【ニホンアカガエル *Rana japonica*】

サイト内では、溪流・湿地ゾーンやふれあいビオトープゾーンが好適な産卵場所となっており、1月下旬頃、繁殖のために一斉に水辺に集まる様子が確認されている。近年水田の乾田化や水田放棄により産卵場所が減少傾向にあり、広島県RDB

（2021）で準絶滅危惧種（NT）に指定されている。周辺のため池や水田では確認できず、里山的管理がされている本サイト内に局在しており、重要な繁殖生息地となっている。



写真の説明：メスをめぐり争うニホンアカガエルのオス

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><溪流・湿地ゾーン> 下草刈り程度で自然の状態を維持しているが、水田管理では農作業を通し、地域の人々や学生との交流を図る。観察会を行うなど憩いの場としても活用する。</p> <p><ぶどう池ゾーン> 上流、下流へ続く「発見の小径」という観察路を整備するほか、池東岸に位置するバードウォールの維持管理、補修などを適宜行い、本ゾーンの水辺環境、アカマツ林の保全を図る。</p> <p><ふれあいビオトープゾーン> ビオトープ周辺では水路斜面の下草刈りのほか、水路の泥上げ、倒木管理を行っている。地域の人々に向けた観察会を行うなど交流の場としても活用している。今後もこれらの活動を継続していく。アカマツ林周辺では、昔ながらの里山環境を維持するため、下草刈り等の管理を定期的に実施し、林床の明るさを確保する。</p> <p><外来種対策> 学生ボランティアと協力し、アメリカザリガニやオオキンケイギク等を対象とした駆除活動を行う。</p>	<p>【モニタリング対象】 鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、植物、菌類を対象とする。哺乳類に関しては各調査と並行して観察できたものを記録する。</p> <p>【モニタリング場所】 調査範囲は区域全域とする。 申請区域（8.4 ha）「溪流・湿地ゾーン」（2.0 ha）、「ぶどう池ゾーン」（3.6 ha）、「ふれあいビオトープゾーン」（2.8 ha）</p> <p>【モニタリング手法】 目撃法：植物、鳥類、爬虫類、菌類、両生類、哺乳類 任意採集法：魚類、昆虫類 任意調査法：全分類</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 およそ四年に一度各分類群の調査を行うこととする。</p> <p>【モニタリング実施体制】 広島大学総合博物館、東広島植物園職員及び学生ボランティア団体CSR（キャンパス・スチューデント・レンジャー）を中心として実施する。</p>